

人権センター公開講座のご案内

『カンボジア地雷撤去活動から人権を考える』

～地雷原の子どもたちと共に～

【講師】一般財団法人 カンボジア地雷撤去キャンペーン(CMC)

理事長 大谷賢二さん



プロフィール

1951年福岡市生まれ。世界約90ヶ国を訪問し、自分自身の目で各国の現実を見つめてきた。カンボジアを訪れた際、多くの地雷被害者に出会い、地雷問題の深刻さに直面し、帰国後自らカンボジア地雷撤去キャンペーン(CMC)を設立。現在、理事長として世界の地雷廃絶運動を推進。

【日時】平成24年10月2日(火) 開演19:30～

【場所】小郡市人権教育啓発センター(大集会室)

どんなおはなし…?

みなさんは「地雷」をごぞんじでしょうか？地雷は地面に埋められた爆弾の一種で、人や車などがその上や近くを通ると爆発し、大人、子どもなど無差別に殺傷する兵器です。しかも戦争が終わっても、撤去しない限り爆発を待ち続ける「悪魔の兵器」です。世界中には今でも7,000万個、カンボジアだけでも600万個の地雷が埋められているといわれ、被害は毎日のように続き、多くの子どもたちが犠牲になっています。

大谷さんはカンボジアの地雷撤去、被害者救済を目指し、「カンボジア地雷撤去キャンペーン(CMC)」を1998年に立ちあげられました。CMCは地雷の撤去だけでなく、小中学校の建設や地雷被害者の心のケアなどの取り組みを行っています。

大谷さんがこれまで体験されたことや、日々の取り組みの中で感じられたこと等をお聞きし、世界に目を向けながら、人権を守るとはどういうことかについてみなさんと一緒に考えてみたいと思います。まずは何事も正しく知ることが大切です。ぜひお気軽にご参加ください。



《問い合わせ先》小郡市人権教育啓発センター
TEL 80-1080 (直通)

手話通訳あり・入場無料

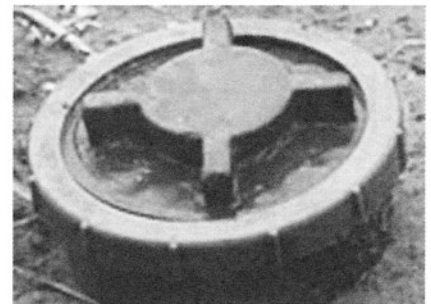
30分に一人の命、手足、目が奪われています

— 悪魔の兵器…地雷 —

今も世界中には7,000万個以上もの対人地雷が埋められていると言われ、それによって死傷する人の数は年間15,000人から20,000人と推定されています。これは世界のどこかで30分に一人の命や手足、視力などが奪われていることになります。

地雷とは

地面に埋められた爆弾の一種で、人を殺傷する目的で作られた「対人地雷」と、戦車や車両を破壊する「対戦車(車両)地雷」とに分けられます。また人や車などが踏むだけでなく、近くを通っただけで爆発したり、二度三度踏んだ後に爆発したりするものなど、その種類や威力の程度の違いなどはさまざまです。さらに、一つがわずか3ドルほどで製造できるため、大量に生産・使用されています。



対人地雷



撤去された数々の地雷

悪魔の兵器…地雷

地雷は悪魔の兵器と呼ばれています。それは次のような非人道的特性を持っているからです。

残虐性

地雷が他の兵器と違うのは、殺すことよりもけがをさせることを目的に作られていることです。殺してしまうよりも負傷させたほうが敵の兵力を奪うことにつながります。また、多くの治療費がかかるとともに、働けない人々の増加でその国の経済力が低下します。生き延びた被害者は、手足の切断、失明などの重度の障がいが残るなど、非常に残虐な兵器です。

無差別性

地雷は相手を選びません。兵士、民間人、大人、子どもの区別なく、踏んだ人の足元で爆発するのです。

残存性

一度埋められた地雷は半永久的に作動し、誰かが踏むまでじっと待ち続けます。しかも田畑や水汲場、山林や人の集まる広場などにも多く埋められており、永い間その国や地域の経済活動を破壊し、人々を苦境に追い込んでいます。

地雷被害にあった子どもたち（カンボジア）



リアスメイちゃん（5歳）

— お兄ちゃんは即死だった —

2012年2月14日。その時彼女は、8歳のお兄ちゃんと一緒に、どこからか持ってきた不発弾で遊んでいた。そのうちに不発弾が爆発、お兄ちゃんは即死した。



チャン・テッド君（12歳）

— 12歳で両足を切断 —

木炭づくりをする父親の仕事を手伝おうとチャン・テッド君はいつしよに森に入った。そして木のねもとにあった地雷を踏み、片足を吹き飛ばされた。治療できる病院が近くにないため、タイの病院まで2時間半、足の肉や骨がむき出しになったままで運ばれた。その後、変形して残っていた右足も切断することになり、彼は両足を失った。「へっちゃらだよ！」と笑顔を見せてくれるチャン・テッド君。つらい気持ちを背負いながらも必死で前へ進もうとしているようだ。

地雷の歴史と禁止の歩み

戦争で地雷が初めて登場したのはアメリカの南北戦争からだと言われています。その後第一次世界大戦を経てさまざまな地雷が多数開発され、第二次世界大戦では3億個以上が使用されたと言われています。そしてその後の各地の紛争で使われたものも含め、世界各地に残った地雷が今も人々の生活を脅かしています。

1996年、カナダのオタワで、地雷を禁止しようという話し合いが始まりました。そして1997年に対人地雷を禁止する条約（オタワ条約）の署名式が行われ、1999年から発効しました。2012年1月現在、日本を含む159の国々が条約を締結しています。しかしアメリカ、ロシア、中国、韓国などは現在も条約を締結しておらず、さらに地雷の製造も続けています。



平和な世界に身を置いている私たちにとって、地雷問題は身近に考える機会の少ない問題だといえます。しかし今もいろいろな国や地域で地雷の被害者は増え続けています。その一方で、地雷撤去作業を黙々と続けている人たちがいます。「悲惨だ」「かわいそう」と感じることも大切ですが、もう一歩進めて「自分は何ができるだろう」と考えてみることも大切なことではないでしょうか。

（出典：外務省、一般財団法人「カンボジア地雷撤去キャンペーン」のホームページ。その他）

人権入門

DVD
(28分)

「人権は、自分には関係ないこと」と思っていませんか？ これは、ある男性の一日を追いながら、そこで起きる出来事を自分の生活と重ね、人権の視点でとらえ直したビデオです。

身近な生活の中に「肩書」「男女の役割」「セクハラ」「外国人のイメージ」などの人権問題の芽が潜んでいることを気づかせてくれます。



みんなで跳んだ

ビデオ
(28分)

本作品は、多くのテレビで紹介され、日本中の人々を感動の渦に巻き込んだ実話がアニメ化されたものです。軽い障がいを持つ級友を巡って、大縄跳びで勝つことを選ぶのか、それともクラスの和か、悩みぬいて一つの選択をします。今一番大切なものは何かを気づかせてくれるビデオです。



ビデオ・DVD紹介

日常での何気ない会話や行動の中で、実は相手を傷つけていることがあります。人の足を踏んでもその痛みはわかりません。踏まれた人の痛みを想像し、気づくことが差別やいじめをなくす第一歩です。

人権センターでは、学校や公民館、又は職場やサークルでの人権学習や研修会等で活用していただくために、DVDやビデオの無料貸し出しを行っています。客観的に「自分」を見つめることで「第一歩」を踏み出してみませんか？

詳しくは、下記人権センターへ。



身の回りで起こる「おかしさ」に気づいた時、それを解決するための行動を起こすことができますか？自分が傷つくことを恐れ、つい「傍観」「同調」という立場に身を置いてしまいがちです。その事が差別を助長し、解決の妨げとなっているのです。このビデオは「ドラマ編」と「解説編」の2部で構成されており、さまざまな人権問題を自分の問題として捉え、解決のための行動を取ることの大切さを考えさせてくれます。



一人の職員が「うつ病」と診断されました。そのことを知った課長はその対処を労務担当者や相談し、何でも話し合え、お互いに支えあう職場環境を作ることの大切さに気づきます。そして他の職員とともに、人権に配慮した職場作りに取り組みます。

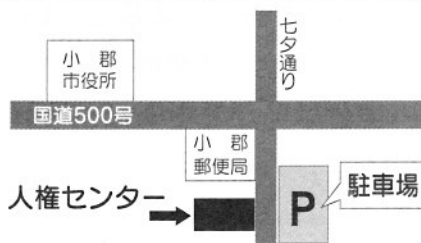
仕事ができ、業績アップが望まれる職場では、各個人のストレスは大きくなり、管理者の配慮も更に必要となってきます。

DVD
(20分)

「私」のない私

ビデオ
(30分)

心のケアと人権(職場編)



小郡市人権教育啓発センター

(所在地) 〒838-0141 小郡市小郡296
(電話&FAX) 0942-80-1080(直通)
(Eメール) oh-rec@iwk.bbiq.jp
(ホームページ) <http://www.oh-rec.org/>